ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.1-R			調査位置						北　緯	36 ° 27 ' 41.2100 "
発注機関	栃木県真岡土木事務所					調査期間	2008-03-04 ～ 2008-03-05			東　経	140 ° 06 ' 04.8400 "
調査業者名				主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	79.25 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	8.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	78.45	0.80	0.80		盛土 (BS)	暗褐			ローム主体にて、植物根混入する。含水中位を呈す。		
1	77.75	0.70	1.50		シルト (M)	暗褐灰		軟らかい	含水やや多い。鉄分の混入多く、酸化している。		
2					粘土 (CH)	茶灰～暗灰		軟らかい	含水多い　上部粘性やや有り、下部シルト質となる。		03/05 2.10
3	76.15	1.60	3.10								
	75.95	0.20	3.30		砂混りシルト (M-S)	暗灰		軟らかい	含水やや多い　極軟を呈し、下部砂分の混入多くなる。		
4	75.25	0.70	4.00		細砂 (FS)	暗灰	緩い		含水やや多い。粒子細かく、シルト分若干混入。		
	74.55	0.70	4.70		礫混り粗砂 (CS-G)	暗灰	緩い		含水多い。礫分混入率40%程度で、細礫の混入目立つ。		
5	73.45	1.10	5.80		砂礫 (GS)	暗灰	中ぐらい		含水やや多い　マトリックスは粗砂で礫分混入多い。礫径φ2～40mm程度で、下部に従い硬質で礫径大きくなる。		
6					中硬岩 (MR)	暗青灰			GL-6.0m付近　砂岩で風化は見られず新鮮でRQDは良くコア採取率は、80%程度である。 GL-7.0m付近　非常に新鮮でRQDは非常に良く、コア採取率は、95%程度である		
7											
8	71.25	2.20	8.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1／30			1／30	1
1.45					
2.00	00／50			00／50	0
2.50					
3.15	00／15	1／20		1／35	1
3.50					
4.15	2	1	1	4／30	4
4.45					
5.15	6	6	6	18／30	18
5.45	50／0			50／0	>50
6.00					
6.00	50／0			50／0	>50
7.00					
7.00	50／0			50／0	>50
8.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						03/04
						03/05